

北海道本別高等学校

課程 全日制
学科 普通科
生徒数 209名

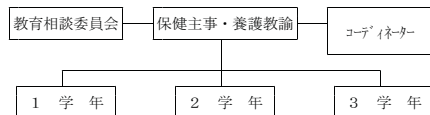
1 取組の特徴

構成的グループエンカウンター等の実施により、教員の予防的・開発的教育相談スキルの一層の向上を図り、生徒の問題行動等を未然に防止する。

2 取組のねらい

幼少期から同じ集団における人間関係が継続しており、生徒の対人コミュニケーションスキルが不足していることから、コミュニケーション能力を高めることにより、集団内の良好な人間関係の構築を目指す。

<組織図>



3 取組の経過

| | | |
|-------|-----------|--|
| 平成23年 | 5月12日(木) | 生徒支援に関する職員研修の実施(教職員対象) |
| | 6月1日(水) | コミュニケーションスキル研修の実施(1学年のみ) |
| | 11月22日(火) | 学習環境適応調査(アセス)(第1回)の実施(1・2学年) |
| | 12月7日(水) | コミュニケーションスキル育成コーディネーターによる演習第1回の実施(1・2学年) |
| | 12月21日(水) | コミュニケーションスキル育成コーディネーターによる演習第2回の実施(1・2学年) |
| 平成24年 | 2月7日(火) | 学習環境適応調査(アセス)(第2回)の実施(1・2学年) |

4 取組の内容

(1) 生徒支援に関する職員研修

ア ねらい: 生徒の特性や状況を十分理解し、学校全体として特別な支援が必要な生徒の指導に役立てる。

イ 内容: 発達障がいについて詳しい専門家の講義を受け、発達障がいのメカニズムを学ぶとともに、特別な支援が必要な生徒に対する対応方法を学んだ。

(2) コミュニケーションスキル研修の実施

ア ねらい: コミュニケーションスキル向上のための演習を実施し、今後の高校生活の基礎となる人間関係を構築するために役立てる。

イ 内容: 生徒同士のコミュニケーションを中心としたゲームを実施した。



(3) 学習環境適応調査(アセス)(第1回)の実施

ア ねらい: 生徒の学級環境適応状況(生活満足感・対人的適応・学習的適応)を客観的に判断する。

イ 結果: アセスの結果が生徒の日常見られる特性とおおむね一致していた。

(4) コミュニケーションスキル育成コーディネーターによる演習(第1回)の実施

ア ねらい: 演習を通してコミュニケーション技術の向上を目指し、今後の学校生活や将来に役立てる。

イ 内容: 1学年は自己紹介、感覚実験、エゴグラムテスト等を実施し、2学年は感覚読み取り実験、アサーショントレーニング等を実施した。



(5) コミュニケーションスキル育成コーディネーターによる演習(第2回)の実施

ア ねらい: 第1回と同様

イ 内容: 1学年はジャンケントーク等を実施し、対人関係の在り方を学んだ。2学年には進路選択の条件や計画的偶発性理論等を紹介し、生徒それぞれに将来設計について考えさせた。



(6) 学習環境適応調査(アセス)(第2回)の実施

ア ねらい: 第1回と同様

イ 結果: 第1回との比較分析を行う。

5 次年度に向けて

1 成果

- ①ステップアッププログラムを開始した平成21年度と平成22年度においては、中途退学者数及び不登校生徒数の合計が各年度とも2名であったが、今年度は0名となった。
- ②アセスの結果分析により、生徒の学校への適応の実態を把握し、ホームルーム活動、授業、個人面談等に活かすことができた。
- ③アセスを実施することにより、教員が生徒をより客観的、多面的視点で見られるようになり、結果として、教員が生徒を受容しようとする意識が高まった。
- ④教員のアンケートでは、「コミュニケーションスキル育成のトレーニングにより、より良いコミュニケーションを実践できる生徒が増加した。」等の感想が寄せられている。
- ⑤生徒のアンケートでは、「コミュニケーションスキル育成のトレーニングの効果を実感できる」という感想が寄せられるとともに、生徒がアンケートの自由記述欄に書く行数が以前よりも増えるなど、トレーニングに対する積極性や肯定感が感じられる。

2 課題

- ①コミュニケーションスキルのトレーニングがその場限りで終わらないよう、引き続き学校生活や家庭生活での応用を促す指導や、各教科等でコミュニケーションスキルを伸ばす取組が必要である。
- ②「アセス」の個々の生徒のデータの分析結果を教員間で共有し、生徒の課題を把握し、HRや学年における集団づくりの改善に努めるとともに、教員の指導力の向上を図る。

3 次年度に向けて

- ①これまでの「アセス」の分析結果を基に、本校で育てたい生徒像の具体化と共有化を図る。
- ②「アセス」の分析結果を学年団のみでなく、教科担任や部活動顧問が活用できるような情報交換の場を、全教員対象に年2回行う。
- ③コミュニケーションスキルトレーニング実施のねらいと指導内容と指導方法を明確化し、何を、どのタイミングで、どうやって行うのか、わかりやすく図式化する。
- ④外部講師による、教諭のためコミュニケーショントレーニングスキル向上のための研修会を実施する。教諭によるトレーニング実施後には、生徒による評価や、教員の自己評価、教員間の相互評価を行い、トレーニングの成果と課題について検証する。